

## お 同じテーマにしがみつかない

まちづくりの仕事は多岐にわたる。なんせまちが抱える課題はいろいろある。そんななかで得意な分野やテーマを持つていることは重要だ。あるテーマに関連しているいろいろなケースを扱うことで課題に対する認識やアプローチの仕方も深まっていく。また得意のテーマで成果をだすことができれば、このテーマならあそこに頼むのが良いという評価が定まることになる。ビジネス的にも有利となる。

ただ、同じテーマでも時代とともに課題の本質が変わってることがある。また、課題が複雑化して異なるテーマとの間にも密接な関係が生じることもある。そうなると、ある特定のテーマのエキスパートであることが足かせになって時代の変化に対応できなくなる可能性がある。私は、たとえば、とにかく飽きっぽい性格なので一つのことを生涯追い求め深めることができない。だからか、まちづくりという根っこは変わらないのだが、テーマ的には十年単位ぐらいでまったく異なるものにチャレンジしてきた。時々、あれをやっていた人と、今、これをやっている人が同一人物とは思えないと言われることもある。

ただ、そうやって異なるテーマにチャレンジすることでまちづくりプランナーとしての幅も広がってきたように思う。異なるテーマにチャレンジしてきたからこそ、まちづくりには「像のデザイン」と「場のデザイン」と「しくみのデザイン」の3つが重要であることを実感をもつて認識することができたし、それぞれに方法論といえるものもなんとかつくりあげることができたと思っている。

普通は、ひとつのことに成功すると、なかなかそれを手放せない。クライアントもそれを評価して仕事を頼んでくる。それをあえて捨てて他のことにゼロからチャレンジするのは無謀と言っても良いかもしれない。ただ、重ねて言うが、社会的に求められるテーマは四半世紀や半世紀で大きく変わってくるものだ。人口増加の受け皿をどのように計画的につくるのが課題だった時代から、今は人口が減少する中で今あるまちをどのようにしていくかが問われている。得意分野を持つことは重要だが、あえて「同じテーマにしがみつかない」姿勢は大切にしなければならぬ。